

翼をください

作詞者 山上路夫(1936ー)。東京都生まれ。病弱だったため、中学校を中退し、独学で作詞家となる。ひまわり社、小学館などで雑誌の仕事しながら作詞を手掛けた。《学生街の喫茶店》《世界は二人のために》《瀬戸の花嫁》などのヒット曲がある。

作曲者 村井邦彦(1945ー)。東京都生まれ。慶応義塾大学卒。作曲家。音楽プロデューサー。1969年に作詞者の山上路夫と音楽出版社アルファミュージックを設立。《虹と雪のバラード》など多くの作品を作曲したほか、荒井由実、YMO、赤い鳥、ガロなどのプロデューサーとしても活躍した。

編曲者 伊藤康英(→本書p.184)

楽曲解説

フォーク・コーラス・グループ「赤い鳥」が1970年に制作した楽曲で、当初は同時収録の《竹田の子守唄》に対してB面曲の扱いだった。音楽の教科書に掲載されたことで合唱曲としても普及し、1998FIFAワールドカップでは日本代表の応援歌としても歌われるほど人気を博した。「赤い鳥」は男性3人、女性2人のグループで、69年にライト・ミュージック・コンテストでグランプリを受賞。74年に解散。その後、「ハイ・ファイ・セット」と「紙ふうせん」に分かれて活動した。

取り扱い上の要点

- 「いまわたしの……」のE音と、「ねがいごとが」のE♭音に注意する。
- 「かなうならば」のようなE音からC音への6度跳躍を、しっかり音を取り、C音が低くならないようにする。
- 「つばさがほしい」は「h」の子音をはっきり出す。
- 4ビートから8ビートに変わるところにあるクレシェンドを、計画的にする。
- 後半部分のシンコペーションを意識することによって、リズムを強調する。

手紙～拝啓 十五の君へ～

作詞・作曲者 アンジェラ・アキ(1977ー)。徳島県生まれ。日米両方にルーツを持つシンガーソングライター、ミュージカル音楽作家。2005年のデビュー以来、リアルな歌詞と力強いピアノ弾き語りのスタイルで多くのヒット曲を生む。一時期活動を停止、渡米してミュージカル作品制作などを学んだ後、現在再び日本でミュージカル制作を中心に幅広く活躍中。

編曲者 高山直也(→本書p.184)

楽曲解説

2008年、第75回NHK全国音楽コンクール・中学校の部課題曲として書き下ろされた曲。鷹羽弘晃による合唱用編曲が、学校によって混声4部、女声3部、女声4部で歌われた。教科書では斉唱・2部合唱に編曲されているが、このように後に多くの編曲家によってさまざまな編曲がなされており、長きに渡って愛唱され続けている。

同じ2008年に、アンジェラ・アキ本人も自身のピアノ弾き語り用にアレンジしたこの曲を、8作目のシングルとしてリリース。同年のNHKの番組『みんなのうた』でも放送された。その後も、この曲はいくつかの企業CMやイベントのテーマソング、映画の劇中歌などにも使用されている。2015年には、この曲とアンジェラ・アキをモチーフにしたという中田永一の小説『くちびるに歌を』が新垣結衣の主演で映画化。この映画の主題歌にもなっている。

取り扱い上の要点

- 歌詞全体が手紙による対話であることに留意し、ひとつひとつの言葉にふさわしい表現を考えて歌う。
- シンコペーションなどのリズムに留意して歌う。
- さまざまな形態の演奏を聴き比べてみるのもよい。(大橋悦子)

伴奏譜(教科書掲載)…別冊p.2

伴奏譜(原曲)…別冊p.6

少年時代

作詞・作曲者 井上陽水(1948ー)。福岡県生まれ。本名は陽水。1969年にアンドレ・カンドレの名でデビュー。72年に改名し、73年の《夢の中へ》が初のヒット曲となる。75年には吉田拓郎らと「フォーライフレコード」設立。2019年にはデビュー50周年を迎え、記念ライブツアーを開催する等、現在も多方面で活躍中。

作曲者 平井夏美(1950ー)。東京都生まれ。作曲家、音楽プロデューサー。本名は川原伸司。松田聖子、岩崎宏美、渡辺満里奈ほかに作品を提供。松田聖子が歌った《瑠璃色の地球》が有名。

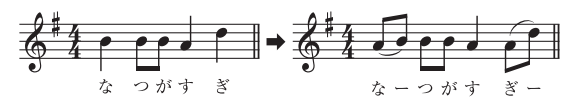
編曲者 森垣桂一(→本書p.184)

楽曲解説

藤子不二雄Ⓐの漫画『少年時代』をもとにした同名の東宝映画の主題歌で、友人だった作者からの依頼で担当することが決まったという。実在しない植物である「風あざみ」や、「宵かがり」「夢花火」等、陽水独特の造語が散りばめられており、厳密な意味合いよりも曲に合う語感で歌詞が彩られていることも特徴の一つである。

取り扱い上の要点

- 井上陽水がこの曲を歌ったCDを聴き、ポルタメントや微妙なりズムのずれを感じ、譜例のような歌い方に取り組ませることによって、いろいろな歌い回しを工夫し、楽譜に書けない音を知る。
 - 歌詞に「a」の母音が多く用いられているので、それぞれの言葉に合った発音を工夫する。「y」子音もたくさんあるが、「i」の響きを十分に準備して発音する。「わたし……」の出だしの「w」も同様に、「u」の響きを準備し発音する。
 - 「おもいでのとさきー」のデクレシェンドを自然にする。
 - 最後のHum.は、よく鼻腔を共鳴させる。
- 伴奏譜…別冊p.10



小さな空

作詞・作曲者 武満 徹(1930ー96)。東京都生まれ。作曲家。《弦楽のためのレクイエム》がストラヴィンスキーに絶賛され、広くその名が知れ渡ることとなった。《ノヴェンバー・ステップス》(→教科書p.137)により、現代を代表する世界的な作曲家として、武満独自の音響世界を創造していったと同時に、ポピュラー曲のアレンジや、親しみやすい歌曲、また映画音楽も数多く残している。

編曲者 伊藤康英(→本書p.184)

楽曲解説

1962年、ラジオ番組『ガン・キング』の主題歌として、ジェリー藤尾によって歌われた。81年には混声合唱に編曲され、東京混声合唱団のアンコールピースとして歌われた。各フレーズは、弱起で引き出され、さらに6度音程の上昇型によって形づくられているのが大きな特徴である。その上昇音型の繰り返し、音楽にゆるやかな起伏と流れを与え、シンプルな旋律でありながらも歌う者に音楽の生命感を感じさせてくれる。

取り扱い上の要点

- 歌詞の素朴さを損なわないよう、しつこく感情移入せず、またテンポが遅すぎることがないように意識する。
 - 6度音程を正確にとる。またJ-POPの歌い方に見られるような、下からすくい上げるような歌い方にはならないよう十分注意する。
 - 歌詞に書かれている情景をイメージさせる。また、歌詞を覚えさせて歌うと、音楽表現にも幅が生まれ、大きな効果を得ることができる。
 - 1～3番のそれぞれの歌詞に合った歌い方を工夫させる。3番の「よぞらをみたら～」の部分の強弱は *p* であるが、小さな声で歌うことを目的とせず、はっきりと語りかけるように歌うことが肝心である。
 - ピアノ伴奏部左手の分散和音音型が、重くうるさくならないよう、音楽の流れを十分意識する。
- 簡易伴奏譜…別冊p.12